

## 歴史探偵「残されたビードロ鏡が語る物語」の活用例

横浜市立中川中学校 榎 登志裕

## 1 はじめに

本時は、かぎられた情報を手がかりとして、「鎖国」の時代といわれたこの当時の日本と中国や朝鮮、東南アジアやヨーロッパとの結びつきを背景に、国内の街道などの交通網の発達や当時の民衆の生活・風俗などから挑戦状に挑む「第4章 武家政治の発展と世界の動き」の中に設定された「歴史探偵」シリーズの3回目である。1回目「発見された人骨のなぞ」、2回目「沈没船のなぞ」での学習で培った情報を用いて歴史を考察し、実証的に説明することができる歴史的思考力を、さらにステップアップするように指導、支援することが重要なポイントとなる。

## 2 どこの場面でどのように活用するか？

「残されたビードロ鏡が語る物語」と関連する小単元をまとめてみると、次のようになる。

## 『第4章 武家政治の発展と世界の動き』

## 第1節 戦乱から天下統一へ

- 1 「南からやってきたヨーロッパ人」  
新航路の開拓、南蛮貿易、キリスト教布教
- 3 「豊臣秀吉の政治と外交」  
キリスト教への政策
- 4 「武将や豪商の生活文化」  
南蛮文化、庶民の文化

## 第2節 武家政治の完成

- 1 「江戸幕府の成立」  
大名統制
- 3 「朱印船貿易から貿易統制へ」  
朝鮮との国交回復、朱印船貿易、禁教、貿易統制
- 4 「世界へひらいていた四つの窓口」  
四つの窓口と貿易・国交、長崎口、対馬口（朝鮮通信使）
- 5 「江戸時代の琉球王国」  
琉球と薩摩、琉球の文化

## 第3節 江戸時代の社会

## 2 「交通と都市の発達」

街道、航路

## 第4節 社会の変動と幕府の対応

## 2 「田沼意次と松平定信の政治」

飢饉と災害、海外情報

## 4 都市中心の町人文化

町人文化、年中行事と子どもたち

## 5 新しい学問と教育の普及

国学と洋学

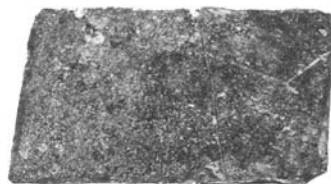
以上のことから、この授業は第5章のすべてが終了した時点で、積み重ねられた基本的・基礎的な知識をもとに、多面的・多角的な視点から展開されることがもっとも望ましいのである。また、学習展開のなかでさらなる学習の発展・深化がなされれば申し分のない授業となろう。

## 3 具体的な展開例

## 挑 戦 状

「鎖国」の時代といわれる江戸時代になぜヨーロッパ風のビードロ鏡が山間部の鎌原村にもたらされたのか。鏡がつくられてここに埋まるまでの物語を考えよう！

## 発見されたビードロ鏡



## その1（一般的な授業の流れ）

- ア. 生徒各自で教科書p.134～135の情報1～4を読み、物語作成のための**事実確認**や疑問点をだす。
- イ. それを全体でまとめ**整理**する。
- ウ. 大きく分類した項目の中に含まれる各自の

疑問によって**追究班**をつくる。

- 工. 検証する内容にそれぞれ**仮説**をたてる。
- オ. それぞれについて**検証**する。
- カ. それぞれの班で検証した内容を**発表**する。
- キ. 各班の発表をもとに**紙芝居**をつくる。

#### ア. 事実確認（整理）

- ※鎌原村（群馬県）から、裏に水銀をぬったガラス製の鏡が発見された。
- ※鏡はヨーロッパ風の貴重なものである。
- ※天明3（1783）年に浅間山が大噴火した。
- ※鎌原村（群馬県）は、大噴火の被害にあった。
- ※鎌原村（群馬県）は、中山道の脇街道であり、多くの商人が利用した。
- ※長崎のオランダ商館には、毎年、バタビアから船が来航した。
- ※ヨーロッパから多くの品物が輸入された。
- ※商品は、長崎で江戸や大阪の商人に売られた。
- ※オランダ商館長が年に一度、将軍へのあいさつのために江戸にきて、献上品を差し出した。

#### イ. 予想される疑問や課題

A：裏に水銀をぬったガラス製の鏡は、どこでつくられたのだろうか。

A：江戸時代の日本で使われていた鏡について調べてみよう。

B：浅間山の大噴火で周辺地域には、

どんな被害が出たのだろうか。

C：鎌原村には、ヨーロッパ風の貴重で高価な鏡を買える人たちがいたのだろうか。

D：当時の人々は、どのくらい旅をしたのだろうか。

D：江戸時代の街道についてまとめ、長崎から鎌原村（群馬県）までのルートを確認しよう。

E：オランダ人は、どんなルートで長崎に来たのだろうか。どんな船だったんだろう。

E：江戸時代には、オランダ人以外にどんな国の人々が来日していたのだろうか。

E：このころのヨーロッパのようすを調べてみよう。

E：ヨーロッパと日本の文化の交流について調べてみよう。

F：オランダ商館長が年に一度、江戸に行くときのルートやようすを調べ、朝鮮通信使や琉球使節のようすと比べてみよう。

（上のFについては、教師の指導が必要となる。このFを導入として授業を展開すると生徒の興味を喚起することができる。——後述）

#### ウ. 追究班をつくらう！

A班：鏡について調べよう（比較など）

B班：大噴火の影響について調べよう

C班：当時の農村の経済状況について調べよう

D班：交通・街道について調べよう

E班：外国との交流について調べよう

F班：おもな使節のルートやようすを比較してみよう

#### その2（導入の工夫）

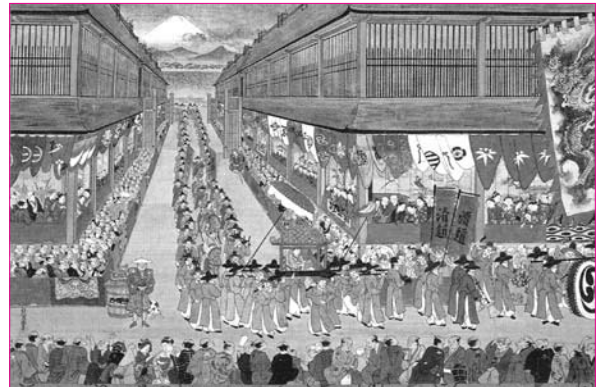
◎3枚の絵を比較して気づいた点を発表しよう！

#### A. 江戸へ向かう琉球使節の行列（大阪人権博物館蔵）



帝国書院『中学生の歴史（最新版）』p.114 ③

#### B. 『朝鮮通信使来朝図』（神戸市立博物館蔵）



帝国書院『中学生の歴史（最新版）』p.113 ③

### C. 参勤交代のようす



帝国書院『中学校の歴史（最新版）』p.106～107（一部）

#### ※授業の発展・深化のための指導・助言

##### 疑問の拡大を図るとよい

- ・この鏡が輸入された時期は「鎖国」の江戸時代といえるのか。南蛮貿易も可能では？
- ・輸入ルートは長崎だけか。平戸や鹿児島、他のルートはないのか。（南蛮貿易、琉球貿易）
- ・当時の外国人は日本人をどのようにみていたのだろうか。…など

#### エ. 仮説をたてよう

##### 推論 その1

ヨーロッパでつくられた裏に水銀をぬってある鏡が、バタビア経由でオランダ人によって長崎にもたらされた。そこから江戸や大阪の商人によって、大名が多く使用する東海道を避け、中山道経由で運ばれた鏡を鎌原村の裕福な人物が購入し使用していたが、天明3年の浅間山の大噴火によって、鎌原村とともに埋没した。

##### 推論 その2

ヨーロッパでつくられた裏に水銀をぬってある鏡が、スペイン人やポルトガル人による南蛮貿易で、長崎や平戸にもたらされた。そこから商人によって大阪に運ばれた。その後、伊勢参りに出かけた鎌原村の裕福な人物が購入し使用していたが、天明3年の浅間山の大噴火によって、鎌原村とともに埋没した。

##### 推論 その3

ヨーロッパでつくられた裏に水銀をぬってある鏡が、東アジアで販売され、中国から琉球にもたらされた。そこから薩摩にわたり、大阪

に運ばれた。その後、大阪の商人が中山道を通して鎌原村を訪れた。そこで村の裕福な人物が購入し使用していたが、天明3年の浅間山の大噴火によって、鎌原村とともに埋没した。

##### 推論 その4

ヨーロッパでつくられた裏に水銀をぬってある鏡が、バタビア経由でオランダ人によって長崎にもたらされた。毎年、オランダ商館長が江戸を訪れる際にこの鏡を持参し、江戸で商人に売った。この鏡を中山道経由でもちこみ、その鏡を鎌原村の裕福な人物が購入し使用していたが、天明3年の浅間山の大噴火によって、鎌原村とともに埋没した。

※生徒がどんな仮説をたてるのか。そのために教師がどのような指導・助言を行うかが大きなポイントとなる。生徒がみえていない部分をアドバイスし、歴史学習への興味・関心を高めたい。

#### オ. 検証するために必要な手だては？

- ☆ヨーロッパからバタビアを経て、日本にいたるルートを地図にまとめる。
- ☆長崎から鎌原村にいたるルートを地図にする。
- ☆外国との貿易の流れをまとめた年表をつくり、おもな輸出品を書きだす。
- ☆江戸時代の服装や化粧などの風俗について調べる。
- ☆当時の農村の経済力を確かめる。
- ☆当時の人々は、どのくらいの旅をしていたのかを調べる。

#### カ～キ. おわりに

各班の検証が終わったら、紙芝居をつくりストーリーの確認をするとよい。このような課題（挑戦状）に取り組むことで、生徒の眼を世界に向けさせ、その視点から歴史を描く力を育てたい。